別紙様式２

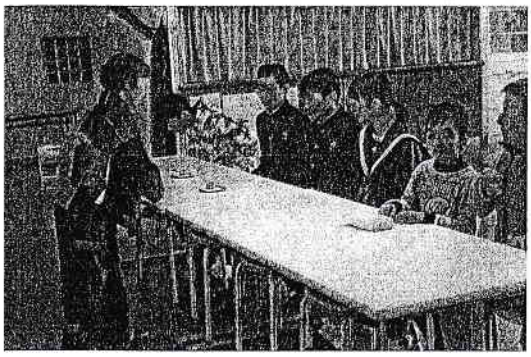
平成30年度地域活性化活動奨励事業報告書

活　動　名	豊田中学校「学校応援団活動」
活動の概要 成　　果 今後の課題	１　活動の概要と成果 （１）生涯学習講座 「学校を地域の賑わいの場に」をテーマに、今年度の取組の柱として「生涯学習講座」を行った。 ①講座のもち方 講師を地域より募集し、要望に応じて授業支援方式（授業でのゲストティーチャーとして指導していただく）と講座方式（土・日に地域住民や小学生も含めて参加者を募り、講座を開講）で実施した。 （授業支援方式） 「クラシックギターを弾こう」（２・３年生音楽科）、「着物・浴衣の着付け」（２年生家庭科）、「地域活性化への取組」（３年生社会科・公民）、キャリア教育講話（３年生総合的な学習） （講座方式） 「心太を作ろう」「抹茶でほっこり（茶道教室）」「手作り年賀状講座」「手話を学ぼう（６回実施）」 ②成果と課題 ・地域人材を活用することで、教員で指導しにくい専門的な内容の学習が充実できた。地域活性化に携わる講話や日本の伝統文化に触れる機会など充実した内容の授業ができた。 ・講座方式では地元の方や小学生らも参加し、中学校を舞台に幅広い世代が交流する機会になった。 ・地域の人も自分の得意分野で指導する側にたち、「楽しかった」という感想が聞かれた。地域貢献の一つの形と感じる。 ・豊田町全戸、町内４小・中学校に講座案内のチラシを配布、ＨＰでもＰＲしたが、参加者は少なかった。継続することで口コミでの増員をめざしたい。 ・今年度は助成金をいただき、運営費用や謝金に充当できたが、活動費を確保できないときの運営は課題である。 （２）生徒の学力定着のための補充学習サポート ①学習会のもち方 週一回の休部日と試験週間中の２日間を補充学習日にした。できるだけ多くの指導者を確保し少人数体制での支援ができるよう、地域から学習サポートの応援を募集し、活動していただいた。 ②成果と課題 ・サポートを通して、地域の方と生徒とが交流できた。特に学習面での支援は信頼関係を築くこともでき、学習面の成果もさることながら良好な交流の場となった。 ・支援員の確保が課題である。応募当初は６名が参加したが、年度末現在継続していただいているのは２名である。 ・教職員の負担軽減も意図したが、達成できていない。

	（３）下関市立大学、西市高校との異校種間交流 下関市立大学から、年間２回（６月、２月）に、２週間のスパンで市立大学より学生に学習支援で入ってもらった。各学級２名ずつ１校時から６校時まで学級に入り、学習の遅れている生徒への学習補助を行った。 また、卒業式に向けて西市高校の生徒が講師になり、１年生に生花のコサージュづくりを指導してもらった。 いずれも異校種間交流事業として、継続していきたい。

活動のようす

1　生涯学習講座

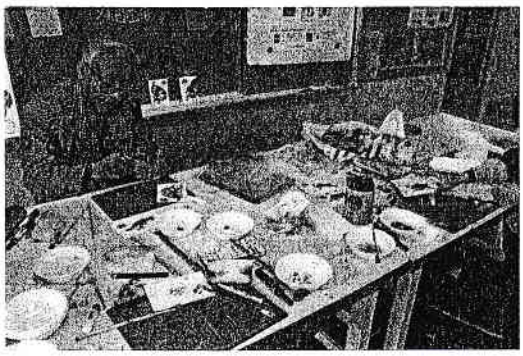


「抹茶でほっこり」

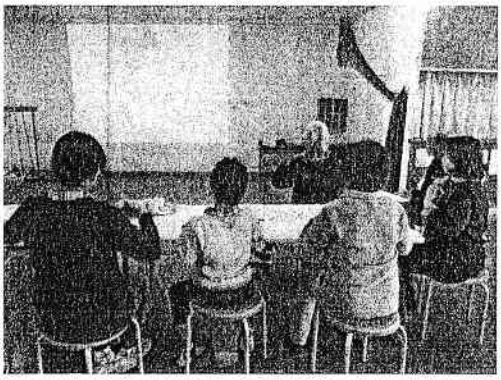
「着物の着付け」

「クラシックギター教室」

「心太を作ろう」



「年賀状教室」



「手話教室」

2　異校種間交流

市立大学学習支援